

CASBEE® 京都-新築

評価ソフト(標準システム)

バージョン CASBEE京都-新築2018(v.1.0)
 ■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版

1) 概要入力

① 建物概要

■ 建物名称	(仮称)御池クリニック南側新館計画	
■ 建設地・地域区分	京都市中京区西ノ京下合町19 他	6地域
■ 地域・地区	準工業地域、準防火地域、遠景デザイン保全区域、町並み型建造物修景地区	
■ 竣工年(予定/竣工)	2022年2月	予定
■ 敷地面積	2256.30 m ²	
■ 建築面積	1273.79 m ²	
■ 延床面積	4,775.56 m ²	
■ 建物用途名	患者の収容施設のない診療所、飲食店 病院,	
■ 階数	地上5F	
■ 構造	RC造	
■ 平均居住人員	150 人(想定値)	
■ 年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)	

② 評価の実施

■ 評価の実施	2021年1月29日	実施設計段階
■ 作成者	事務所 白井 大輔	
■ 確認日	2021年1月29日	
■ 確認者	事務所 白井 大輔	
■ LCGO2の計算	標準計算	→LCGO2算定条件シート(標準計算)を入力

2) 個別用途入力

① 用途別延床面積

事務所	0.00 m ²	事務所		m ²
		官公庁		m ²
学校	0.00 m ²	幼稚園・保育園		m ²
		小・中学校		m ²
		小・中学校(北海道以外)		m ²
		高校		m ²
		大学・専門学校		m ²
物販店	0.00 m ²	デパート・スーパー		m ²
		その他物販		m ²
飲食店				m ²
集会所	0.00 m ²	劇場・ホール		m ²
		展示施設		m ²
		スポーツ施設		m ²
工場		うち省エネ計画対象面積		m ²
病院	4775.56 m ²			m ²
ホテル				m ²
非住宅 小計	4,775.56 m ²			m ²
集合住宅	0.00 m ²	専用部		m ²
		共用部		m ²

② 住居・宿泊部分の比率

■ 病院の延床面積のうち、病室部分の床面積の比率	0
■ ホテルの延床面積のうち、宿泊部分の床面積の比率	
■ 集合住宅の延床面積のうち、住戸部分の床面積の比率	0.00

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)御池クリニック南側新館計画	階数	地上5F
建設地	京都市中京区西ノ京下合町19 他	構造	RC造
用途地域	準工業地域、準防火地域、遠景デザイン保全区域、町並み型建造物移住地区	平均居住人員	150 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年2月 予定	評価の実施日	2021年1月29日
敷地面積	2,256.30 m ²	作成者	株式会社東洋設計事務所 白井 大輔
建築面積	1,273.79 m ²	確認日	2021年1月29日
延床面積	4,775.56 m ²	確認者	株式会社東洋設計事務所 白井 大輔



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 89%
 ③上記+②以外の 89%
 ④上記+ 89%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 4
 Q3 室外環境(敷地内): 3
 LR1 エネルギー: 3
 LR2 資源・マテリアル: 3
 LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.1

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	建物利用者のためのより快適な室内環境となるよう昼光率の確保や化学汚染物質に配慮するとともに、省エネルギーに配慮し省水型機器の採用やリサイクル材の使用をする。	その他 特に無し
Q1 室内環境	T-2の遮音性能を有し、十分な昼光率を確保できる計画とした。	Q3 室外環境(敷地内) 防犯カメラを設置するなど建物の防犯性に努めるとともに、建物内に植栽を設け豊かな中間領域を形成する計画とした。
LR1 エネルギー	BPI=0.78/BEI=0.86	LR3 敷地外環境 建物利用者のための十分な駐輪場および駐車場を確保し、交通負荷抑制を図った。
Q2 サービス性能	3.7m以上の階高とし、壁長さ比率を0.3以下に抑えるなど空間のゆとり配慮した。	
LR2 資源・マテリアル	節水コマや省水型機器を採用するなど省エネルギーに配慮した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1 建物概要		BEE	1.3	B+	★★★
建物名称	(仮称)御池クリニック南側新館計画				
延床面積	4,775.56 m ²				
用途	患者の収容施設のない診療所、飲食店 病院	使用CASBEE評価マニュアル CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 使用CASBEE評価ソフト CASBEE京都-新築2018(v.1.0)			

2 重点項目への取組度	
キーワード	取組度
1 大切に使う	
2 ともに住まう	
3 自然からつくる	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

1 大切に使う

■長寿命化		合計点	30 / 41
◇メンテナンスの容易性		合計点	13.8 / 20
Q2/ 3.3.1 空調配管の更新性	スコア 3	Q2/ 2.2.1 躯体材料の耐用年数	スコア 3
Q2/ 3.3.2 給排水管の更新性	スコア 3	特に無し	
Q2/ 3.3.3 電気配線の更新性	スコア 5		
Q2/ 3.3.4 通信配線の更新性	スコア 5		
Q2/ 3.3.5 設備機器の更新性	スコア 3		
(注 上記5項目のスコアの平均が合計点に加算される)		◇社会的長寿命	
特に無し		Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3
		Q2/ 3.1.2 空間の形状・自由さ	スコア 4
		壁長さ比率≤0.3	
■省資源		合計点	15 / 20
LR2/ 2.1 材料使用量の削減	スコア 2		
LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	スコア 3		
LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	スコア 5		
LR2/ 2.6 部材の再利用可能性向上への取組	スコア 5		
リサイクル資材の積極的な採用およびOAFフロアなど再利用可能な部材を使用			
◆独自加点点目		合計点	1 / 1
LR2/ 2.1 材料使用量の削減	主要構造部が木造躯体である場合で、「持続可能な森林から産出された木材」を使用しており、うち地域産木材を使用している。	対象外	
LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	主要構造部に使用した「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	対象外	
LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	○	

2 ともに住まう

■自然とともに住まう		合計点	6 / 10
◇自然を感じられる計画		■地域とともに住まう	
Q2/ 1.2.1 広さ感・景観	スコア 対象外	合計点	23 / 37
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 3	◇地域環境やコミュニティへの配慮	
Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 3	Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア 4
特に無し		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3
		LR3/ 3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	スコア 3
		防犯カメラの設置	
■歴史とともに住まう		合計点	7 / 10
◇歴史性への配慮			
Q2/ 1.2.3 内装計画	スコア 3		
Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア 4		
地域産木材の使用			
◆独自加点点目		合計点	0 / 2
Q2/ 1.2.1 広さ感・景観	京都重点項目による加点により、レベル5を超える。		
LR3/ 3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	格子状ルーバーや簾状スクリーンによりガラス面等の反射光を抑制している。または外壁に反射率の低い自然素材を採用している等の推奨内容の取組みを、1以上実施している。		

3 自然からつくる

■自然材料の利用		合計点	29 / 45
◇自然環境への配慮		合計点	10 / 15
Q2/ 1.2.3 内装計画	スコア 3		
Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア 4		
LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材	スコア 3		
地域産木材の使用			
■自然環境の利用		合計点	17 / 25
Q1/ 3.1.1 屋光率	スコア 4	LR1/ 2 自然エネルギー利用	スコア 4
Q1/ 3.1.3 屋光利用設備	スコア 3	LR2/ 1.2.1 雨水利用システム	スコア 3
Q1/ 3.2.1 屋光制御	スコア 3		
Q1/ 4.2.2 自然換気性能	スコア 対象外		
屋光率≥2.0%			
◆独自加点点目		合計点	2 / 5
LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。		○
Q1/ 3.1.3 屋光利用設備	デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の屋光利用設備を採用している。		
Q1/ 3.2.1 屋光制御	デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の屋光利用設備を採用している。		
LR1/ 3 設備システムの高効率化	評価する取組みのうち、何れかの手法が採用されている。(但し、モニュメントの計画を除く)		○
上記の内容に加え、利用量が15MJ/m ² ・年以上となる場合。			

4 低炭素景観の創出に関する評価			
<input type="checkbox"/> Q1/3.1.3 屋光利用設備	<input type="checkbox"/> Q1/3.2.1 屋光制御	<input checked="" type="checkbox"/> Q3/1 生物環境の保全と創出	低炭素景観 取組数
<input type="checkbox"/> Q3/3.2 敷地内温熱環境の向上	<input type="checkbox"/> LR3/2.2 温熱環境悪化の改善	<input type="checkbox"/> LR3/3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	
			1/6項目

5 ライフサイクルCO₂とCO₂削減率			
ライフサイクルCO ₂ (ライフサイクルCO ₂ 参照値)	136.23	kg-CO ₂ /年m ²	ライフサイクル CO ₂ 削減率
CO ₂ 削減量	153.86	kg-CO ₂ /年m ²	
	-17.63	kg-CO ₂ /年m ²	
			+11.5%

6 ウッドマイルージCO₂とCO₂削減率			
ウッドマイルージCO ₂ CO ₂ 削減効果		kg-CO ₂ kg-CO ₂	ウッドマイルージ CO ₂ 削減率
			0%

「ウッドマイルージ計算書」から転記 : 自由記述入力欄

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
(仮称)御池クリニック雨側新館計画

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し			評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 パリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										

2.4 信頼性					2.6	0.20			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				2.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				2.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.4	0.30			3.4
3.1 空間のゆとり					4.0	0.30			
1	階高のゆとり			階高 $\geq 3.7m$	4.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	壁長さ比率 ≤ 0.3	4.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.30			
3.3 設備の更新性					3.4	0.40			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	仕上げ材を痛めることなく更新・修繕が可能	5.0	0.10			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	仕上げ材を痛めることなく更新・修繕が可能	5.0	0.10			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30			3.1
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		3.0	0.30			3.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.5	0.30			3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)	防犯カメラを設置するなど防犯性に配慮している	4.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-			3.4
LR1 エネルギー					-	0.40			3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制				[BPI][BPI _m] = 0.78	5.0	0.20			5.0
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)	トップライト	4.0	0.10			4.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	[BEI][BEI _m] = 0.86	2.7	0.50			2.7
4 効率的運用					3.0	0.20			3.0
集合住宅以外の評価					3.0	1.00			
4.1	モニタリング				3.0	0.50			
4.2	運用管理体制				3.0	0.50			
集合住宅の評価					-	-			
4.1	モニタリング				-	-			
4.2	運用管理体制				-	-			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			3.6
1 水資源保護					3.4	0.20			3.4
1.1 節水				節水コマなどに加えて、省水型機器などを採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減					3.7	0.60			3.7
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10			
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	磁器質タイル、塩ビタイル、持続可能な森林から産出された木材	5.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている	5.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.7	0.20			3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避					4.0	0.70			
1	消火剤			ノンフロン	-	-			
2	発泡剤(断熱材等)				5.0	0.50			
3	冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境					-	0.30			3.2
1 地球温暖化への配慮				LCCO2の抑制をしている	3.4	0.33			3.4
2 地域環境への配慮					3.0	0.33			3.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25			
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3	交通負荷抑制			建物利用者のための適切な量の駐輪駐車スペースの確保	4.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音				3.0	1.00			
2	振動				-	-			
3	悪臭				-	-			
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制					3.0	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.70			
2	砂塵の抑制				3.0	-			
3	日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					4.4	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策ガイドラインチェックリストの過半を満たし、屋外広告物照明なし	5.0	0.70			
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)御池クリニック南側新館計画

計画上の配慮事項	
総合	建物利用者のためのより快適な室内環境となるよう昼光率の確保や化学汚染物質に配慮するとともに、省エネルギーに配慮し省水型機器の採用やリサイクル材の使用をする。
Q1 室内環境	T-2の遮音性能を有し、十分な昼光率を確保できる計画とした。
Q2 サービス性能	3.7m以上の階高とし、壁長さ比率を0.3以下に抑えるなど空間のゆとりを配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	防犯カメラを設置するなど建物の防犯性に努めるとともに、建物内に植栽を設け豊かな中間領域を形成する計画とした。
LR1 エネルギー	BPI _m =0.78/BEI _m =0.86
LR2 資源・マテリアル	節水コマや省水型機器を採用するなど省エネルギーに配慮した。
LR3 敷地外環境	建物利用者のための十分な駐輪場および駐車場を確保し、交通負荷抑制を図った。
その他	特に無し